

2023年度春季研究発表大会

3月9日(木)・10日(金)

ホテル京セラ (鹿児島県霧島市)



研究発表募集中 申し込み締め切り2月1日

後援:(予定)

経済産業省九州経済産業局
 鹿児島県
 霧島市
 鹿児島工業高等専門学校
 一般社団法人鹿児島県情報サービス産業協会
 一般社団法人熊本県情報サービス産業協会
 一般社団法人電子情報技術産業協会
 一般社団法人情報サービス産業協会
 一般財団法人日本科学技術連盟
 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会
 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

協賛:(予定)

公益社団法人日本経営工学会
 公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会
 一般社団法人日本品質管理学会
 日本信頼性学会
 一般社団法人経営情報学会
 一般社団法人日本設備管理学会
 研究・イノベーション学会
 公益社団法人土木学会
 一般社団法人電気学会
 一般社団法人日本機械学会
 一般社団法人電子情報通信学会
 公益社団法人精密工学会
 日本ファンクションポイントユーザ会



IPMA JAPAN

International project management association

2023年度春季研究発表大会オフィシャルツアーについては、大会ホームページをご覧ください。

■大会概要 (対面形式)

日程 2023年3月9日 (木) ~10日 (金)

会場 ホテル京セラ 鹿児島県霧島市隼人町見次 1409-1 (鹿児島空港よりバス 18分)

■参加費

	正会員		学生会員		非会員	
	早割	通常	発表者	非発表者	早割	通常
研究発表大会(3/9-10)	15,000円	17,000円	無料*1	5,000円	20,000円	25,000円

法人会員は一口あたり3名まで正会員料金で参加可能。2月20日までお支払いの場合には早割り価格で参加いただけます。支払は、クレジットカード払い(VISA, MasterCard, JCB), 請求書払いのいずれかの方法となります。お支払後の返金はできませんのでご了承ください。なお当日欠席される場合でも参加費はお支払いいただきます。また出席者の交代は一切ご遠慮ください。*1「学生会員」かつ「発表者(第一著者)」に限ります。

■キーノート



「データ活用とエコシステム組成によるスマートシティの社会実装」

受川 裕氏
日本電気株式会社執行役員
クロスインダストリーユニット長



「The hidden face of digitization: how to move forward self-organizations in project management」

Jesus Martinez Almela 氏
IPMA Chairman of the Council of Delegates



「金融ビジネスのトレンドと日立の取り組み」

豊川 聡氏
(株)日立製作所 金融ビジネスユニット 第一金融事業部 事業主管

大会公式ウェブサイト<<https://www.spm.or.jp/committee/2023spring/>>

■問い合わせ先 spm_conference@spm.or.jp お問い合わせの前にFAQをご覧ください。

2023年度春季研究発表大会 キーノート概要

■キーノート1 3月9日 10:00-11:00

※時間は変更になることがあります

「データ利活用とエコシステム組成によるスマートシティの社会実装」 日本電気株式会社執行役員 クロスインダストリーユニット長 受川 裕氏

日本が直面している前例の無い複合的な社会課題や地域課題をデジタルの力で解決していくスマートシティは、政府のデジタル田園都市国家構想の推進に伴い、実証から社会実装に向けて大きな転換点を迎えています。NECは「世界に誇れる『地域らしい』まちの進化」をビジョンに掲げ、データ連携・利活用によって新たな価値を創造し、経済循環の促進、住民のQoLの向上、社会課題の解決に取り組んでいます。今回は、スマートシティの社会実装に向けた当社の国内外の先行事例や自律自走のための産学官民の多様なステークホルダーとのエコシステム組成、そしてWell-Being向上に向けた次世代のまちづくりの将来像についてご紹介します。



■キーノート2 3月10日 10:00-11:00

「The hidden face of digitization: how to move forward self-organizations in project management」 IPMA Chairman of the Council of Delegates Jesús Martínez Almela氏

Project management for IT projects experienced a significant change in the last twenty years. From tools and method oriented approach it developed into an agile framework when new methods and methodologies are used more today in a worldwide context evolving from a VUCA towards a BANI World.

Immersed in the BANI era, coping with AI, robotics and digitization the question mark is which will be future trends and drivers of changing careers and job roles of IT project management team members stretching out into the future with AI-digitization adoption?

Will be the AI the opportunity to a receptive workforce for Project Management and Project Managers?

Many of us keep wondering about what will be the necessary competences to lead IT projects in the BANI era because the implications related to adoption of AI-digitization competences are significant and here is when the hidden part of the efforts, resources lead through projects and project managers should have relevance.

Speech will breakdown and invite for a deeper reflection regarding this “hidden face of digitization”, a set of key consideration addressing the transcendancy about so called SO-self organizing in project management from Individual level (individuals working in projects), Project team level (project teams), Organizational level (project oriented organizations) till Society level (project oriented societies) as well.



■キーノート3 3月10日 13:20-14:20

「金融ビジネスのトレンドと日立の取り組み」 (株)日立製作所 金融ビジネスユニット 第一金融事業部 事業主管 豊川 聡氏

デジタル技術の進展やFinTech企業の台頭など、金融機関を取り巻く環境は目まぐるしく変わっています。更に最近になって持続可能な社会形成への貢献が金融機関に対しても求められるようになってきました。金融機関はDXにより既存の金融サービスの価値を高めると共に、エンベデッドファイナンスのような異業種連携や、サステナブルファイナンスによる脱炭素への取り組みを加速しています。本キーノートでは、これらの金融機関を取り巻くトレンドに対する日立の取り組みについて事例を交えてご紹介します。



■論文募集要項

研究発表大会の発表者(第一著者)は正会員または学生会員であること。発表テーマ等詳細情報は随時[大会公式ウェブサイト](https://www.spm.or.jp/committee/2023spring/) <<https://www.spm.or.jp/committee/2023spring/>>に掲載予定です。

入会申し込み <https://spm.or.jp/admission/guide/>

応募方法 学会ウェブサイト<https://spm.or.jp/>から申し込み (2023年2月1日まで)

全ての発表者の方は、A区分又はB区分から1つを選択してください。学生会員が第一著者の場合は、学生表彰に応募するか否かを選択して下さい。学生表彰応募者は、表彰式(3月9日)に参加する必要があります。

・発表のみ(A区分): 2~15ページの原稿

・学会誌への投稿を兼ねる発表(B区分): 6~15ページの原稿

B区分で発表申込をすると、投稿された論文はそのまま論文審査・編集委員会による正式論文としての査読に回されます(再提出の機会はありません)。審査完了前に同じ内容の論文を他学会に投稿したり、他所で発表したりすると「二重投稿」と呼ばれる重大な違反行為になりますので注意してください。

■論文提出

論文投稿システムによる提出。フルペーパー-2月13日締め切り(以降は編集不可)